2009 年 10 月 1 日

情報通信システム学科１～２年生の皆さんへ

村川猛彦

自主演習「『とは』から始めるコミュニケーション」について

皆さんにとってはまだ先かもしれませんが，テレビ番組や，先輩の話で，就職活動の大変さを耳にしていることでしょう．内定を得るには，面接で「この学生に来てほしい」と思ってもらえるような，言葉のやりとりが不可欠です．就職対策に限らず，授業の答案作成や，先生に質問するときなど，言葉のやりとり（コミュニケーション）は常に求められています．

たくさん会話をすれば，コミュニケーション能力が上がる，というものではありません．他愛もない「おしゃべり」と，就職活動の面接とで，求められること，自分のすべき行動が異なるからです．おしゃべりなら，聞く側が少々分からなくても会話が成り立ちますが，就職活動を含むビジネスの場では，言葉の一つ一つから発言の流れまで，厳しくチェックされます．

自分の発することを意図通りに理解してもらい，何らかの言葉の意味を共有する，そのためのキーワードは，「～とは」です．「なになにとはこれこれのことで～」と口をついて言えるよう，練習を重ねることで，コミュニケーションの媒体である日本語と，日本語に限らない手段を含むコミュニケーションについて，豊かな知識と確かな技能を持つことができるのではないかと考え，自主演習を企画しました．

以下の目標・方針で，ゼミ形式の勉強会を実施します．

① 物事を適切な日本語（書き言葉・話し言葉）で説明できる能力を養います．

② 各参加者が情報を持ち寄り，小さな負担で幅広い知識を獲得します．

③ コミュニケーションの難しさと楽しさを学びます．

１回のゼミの進め方は次の通りです．あらかじめ，各参加者は与えられた「お題」に対して，それを説明するための文章を作っておきます．ゼミでは順にその内容を報告します．報告ごとに，内容の分かりやすさや表現方法について，教員や他の参加者が質問・提案をします．ゼミ終了後に，文章を修正し，教員に提出します．

このように，事前準備，口頭発表と，参加者の相互チェックを通じて，コミュニケーションの理解を深めます．十分な時間をかけて取り組んで成果物を完成させ，所定の事務手続きをした学生には，システム工学自主演習として１単位が与えられます．

内容に関心のある人は，10 月 20 日(火）までに村川（takehiko@sys.wakayama-u.ac.jp）へメールを送ってください．

【Q&A】

Q: 指導教員は一人ですか？
A: はい，学科で実施している授業や補習科目ではなく，村川個人の教員提案型自主演習です.

Q: 個人履修ですか？
A: グループ履修（２人以上の参加者）を想定しています.「お題」は，学生ごとに異なります．共通の問題を解くのではないというのは，これまでの授業になかったやり方かもしれませんね.

Q: 定員はありますか？
A: 希望者が多ければ，私の指導できる範囲内で，定員を設けます．なお，昨年と一昨年は，C プログラミングに関する自主演習を企画し，２年生（当時）が１名ずつ実施しました.

Q: 内容に興味はありますが，講義や演習が多くて….
A: そういう不安のある人は，講義・演習を優先するほうが，実りが多いと思います．前ページの学習方法に関心を持ち，授業以外に活動できる人を募集しています.

Q: 「１回」の流れは分かりましたが，何回するのでしょうか？
A: ８回程度を考えています．１回を準備・ゼミ（発表）・発表後修正を合わせて４時間とすれば，８回で合計３２時間になり，自主演習で必要とされている時間数（３０時間）を超えます.

Q: このゼミに参加する上で良い本はありますか？
A: コミュニケーション能力向上に関する本を何冊か購入しています．貸し出し可能にしたいと思います.

Q: 「１～２年生」ではないのですが，参加できますか？
A: 別途相談ください.

Q: 提出した書類は，公開するのですか？
A: しません．ゼミ参加者だけの資産とします．文章の中に，発表者の個性，ときにはプライバシーに関するような（公開がふさわしくない）記述を認めたい，とも考えています.

【さらにつっこんだ Q&A】

Q: 会話よりも文書（話し言葉よりも書き言葉）を重視するのですか?
A: そうです．というのも，「～とは」を話すのは即興で（事前の準備なしに）できるものではなく，入念な調査と，その整理が不可欠だからです．回数を重ねることで，調査・整理は当たり前となり，どこに注意して話すと効果的かというのを，学んでもらいたいと考えています.

Q: 作ったお題にしか，「～とは」が言えなくなるのでは？
A: 自分なりに苦労して取りまとめ，ゼミで発表して批判を浴びたものについては，より深くその対象を知っているわけですから，さらに何を言えば伝わりやすいかを考える「余裕」ができます．よく分かっていない言葉について，話せと言われたら，関連する語句や概念を頭から引っ張り出して，組み立てるしかありません．そのような発想の支援も，ゼミの議論の中で培っていきたいと考えています.

Q: 要領よく文章を作り，要領よく話せる人を養成するのですか？
A: いえ，「課題に対して客観と主観，具体と抽象をうまくバランスさせ，モノ（このゼミでは文章）を作り，アウトプットできる人」を目指します．対象を「日本語」と狭くしていますが，JABEE で要請されている「エンジニアリングデザイン能力」と密接に関係しています．このゼミで十分な時間学べば，エンジニアリングデザイン能力とはどのようなものかが，見えてくるよう，進めたいと考えています.

Q: 与えられるお題よりも，うまく自己紹介ができるようになりたいのです．どうすればいいでしょうか？
A: 「自分とは」は，あらゆる「～とは」の中で究極の課題だと思います．まずは他の人が容易に検証可能な，授業や専門の用語で「～とは」を作って技能を磨くのがいいでしょう．しかしながら，このゼミでも，最終段階として，「自分とは」（自己紹介）を実施したいものです．ただしそれで「～とは」の勉強はおしまい，というのではなく，その時点での知識や能力で自分を規定する，という意味です．就職活動をするときには，また別の「自分とは」を組み立て，アピールすることになるでしょう.